

八街市柳沢牧井戸谷津尻野馬土手

— 主要地方道成東酒々井線バイパス(八街バイパス)事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成28年3月

千葉県教育委員会

やちまた し やなぎ さわ まき い ど や つ じり の ま ど て

八街市柳沢牧井戸谷津尻野馬土手

— 主要地方道成東酒々井線バイパス（八街バイパス）事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —



序 文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡などが埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会は、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的としたこれまでの諸活動に加え、平成 25 年度から千葉県が行う開発事業にかかる発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について直接実施することとしました。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第 13 集となる、主要地方道成東酒々井線バイパス（八街バイパス）事業に伴って実施した八街市柳沢牧戸谷津尻野馬土手の発掘調査報告書です。調査成果としては、野馬土手に伴う野馬堀を検出することができ、周辺の調査事例と合わせ、柳沢牧の様相を知るうえで貴重な成果が得られました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する興味を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月

千葉県教育委員会
文化財課長 永沼律朗

凡　例

- 1 本書は、千葉県県土整備部印旛土本事務所による主要地方道成東酒々井線バイパス（八街バイパス）事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記の遺跡を収録したものである。
柳沢牧戸谷津尻野馬土手 八街市八街字ぼ 993-3 ほか（遺跡コード 230-008）
- 3 千葉県県土整備部の委託を受け、発掘調査及び報告書作成に至る整理作業を平成 27 年度に千葉県教育庁教育振興部文化財課が実施した。
- 4 調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者等は以下のとおりである。

平成 27 年度

千葉県教育庁教育振興部文化財課

文化財課長 永沼律朗

発掘調査班長 蜂屋孝之

担当者 主任上席文化財主事 田島 新

実施期間 発掘調査 平成 27 年 10 月 5 日～10 月 8 日

整理作業 平成 27 年 11 月 2 日～11 月 30 日

- 5 本書の執筆・編集は田島が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、八街市教育委員会、千葉県県土整備部道路整備課、同印旛土本事務所、千葉県酪農のさと、八街神社、小宮清三郎氏ほか多くの方々から御指導・御協力を得た。
- 7 本書で使用した地図の座標値は、世界測地系にもとづく平面直角座標で、図面の方針はすべて座標北である。
- 8 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
第 2 図 國土地理院発行 1/25,000 地形図「八街」平成 22 年を縮小編集
第 3 図 八街市発行 1/2,500 八街市地形図を拡大編集
第 5 図 参謀本部陸軍部測量局作成 1/20,000 迅速測図「八街村」「東金町」
- 9 図版 1 の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和 45 年撮影のものを使用した。

本文目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査の概要.....	1
1 事業の経緯と経過.....	1
2 調査の方法と経過.....	1
第2節 遺跡の位置と柳沢牧.....	2
第2章 調査の成果.....	5
第3章 総括.....	6

報告書抄録

挿図目次

第1図 千葉県内の近世牧位置図.....	2	第4図 遺構平面図・断面図.....	5
第2図 柳沢牧位置図.....	3	第5図 迅速測図と調査地点.....	7
第3図 周辺地形図と調査地点.....	4		

図版目次

図版1 航空写真 (S=約1/8,000)	図版4 トレンチ
図版2 調査前・調査状況	図版5 トレンチ
図版3 調査状況・トレンチ	図版6 トレンチ・周辺の野馬土手

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 事業の経緯と経過

八街市は千葉県の西部と北東部、南東部へ向かう交通路の要衝であり、特に、八街駅周辺は、国道409号、千葉八街横芝線、成東酒々井線等、国県道が集中しているため從来から駅利用交通と通過交通による慢性的な交通渋滞が発生している。そこで、駅利用交通と通過交通との分離をすすめ、交通混雑の解消・歩行者の安全等を図るため主要地方道成東酒々井線八街バイパスの整備計画がたてられた。この整備計画にあたって平成9年12月に、千葉県印旛土木事務所長より事業地内における「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が、千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では現地踏査等の結果を踏まえ、平成10年10月に事業計画地内に野馬土手が所在する旨の回答を行った。そして、この回答を受け、その取扱いについて関係機関による協議を重ねた結果、事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり、平成12年度以降、発掘調査を実施することとなった。なお、同事業地内では5地点の野馬土手が所在する。そのうち2か所（第2図⑪⑫）については平成12年度に（財）印旛都市文化財センターによる発掘調査が実施され、既に報告書が刊行されている。また、平成25年度には千葉県教育委員会による発掘調査が実施され、同じく報告書が刊行されている。工事予定地内には未調査地2地点があり、今回の調査区のはか西側に残る1地点が所在している。

柳沢牧戸谷津尻野馬土手の発掘調査は、調査対象200mに対して平成27年10月5日に開始し、同10月8日に現場作業を終了し、11月2日から11月30日まで整理作業を実施した。

2 調査の方法と経過

発掘調査 調査対象の遺跡は近世牧の野馬土手で、現状では道路となっており、高まりなどは確認できなかったが、近隣の調査成果からは複数の溝が検出される可能性が高いため、土手が想定される道路箇所を中心とし、長さ10m、幅20mの範囲を調査対象区とした。発掘調査は事業者による路盤材除去後、重機を使用したトレンチによる確認調査を実施した。確認トレンチは道路箇所に直行する方向に1本設定した。トレンチ内で検出された遺構は2条の溝で、覆土を取り除き完掘したが、遺物は出土しなかった。調査終了後、トレンチ内を重機で埋め戻し、現場作業を終えた。なお、旧石器時代包蔵地ではないため、下層確認調査は実施していない。検出した遺構については溝を北からSD-001・SD-002と呼称した。記録作成は平板測量によりトレンチ・遺構平面図を作成し、遺構断面図についても手実測により行った。写真撮影はデジタルカメラ（Raw・JPEGデータ）とともに、6×7モノクロ、35mmカラーリバーサルフィルムカメラにより実施した。

整理作業 現場発掘作業期間と併行して、既存の柳沢牧野馬土手資料の収集・整理、調査図面・写真的記録整理を進めた。調査後、現場図面の鉛筆トレース・修正を行い、また、写真図版候補写真を出し、仮レイアウトを行った。その挿図・写真図版原図をもとにデジタル編集によるトレースや写真補正等を行い、挿図・写真図版を作成した。その後、原稿執筆・編集・校正作業をへて、整理作業を終了した。なお、編集中に報告書に基づいた収納整理作業も併せて実施した。

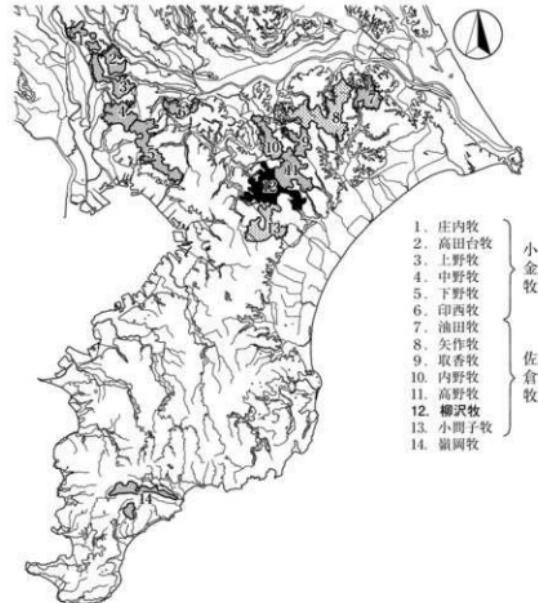
第2節 遺跡の位置と柳沢牧（第1～3図、図版1）

今回の調査対象となった近世牧の野馬土手は八街市八街は地区に位置し、作田川に開析された支谷の最奥部北側に広がる標高約45mの台地平坦部に立地する。台地南東側の谷津底面までの比高は約12mである。この地点は佐倉七牧のうちの柳沢牧の一部にあたり、調査遺跡名は字名から「柳沢牧井戸谷津尻野馬土手」とした。以下、柳沢牧について説明を行う⁽¹⁾。

千葉県内には江戸幕府直轄の牧として小金牧・佐倉牧・嶺岡牧が所在していた。柳沢牧は佐倉牧の中で最南にある小間子牧の北側に接して位置する。もともと小間子牧とは寛文2（1662）年までは一つの牧として機能していた。柳沢牧の範囲は八街市を中心として、佐倉市、山武市、酒々井町にまで及ぶ。『野方七牧村々高帳』寛政11（1799）年では柳沢牧の野付村として山武市7・佐倉市19・富里市3・八街市1の30か村が挙げられている。1986年『千葉県生産遺跡分布調査報告書』では柳沢牧の野馬土手32か所（総延長6,655m）の現存が確認され、2006年『県内遺跡詳細分布調査報告書』では絵図や迅速測図、発掘調査成果等を総合的に分析し、牧の範囲を第2図のように東西10.8km、南北9.1kmと推定している。なお、明治維新後、新政府の牧の畑作農村化により、柳沢牧は明治3（1870）年4月に8番目の開拓地として入植が開始され、八街（やちまた）と名付けられた。

柳沢牧でこれまでに発掘調査が実施された地点は、本調査区を含めて16か所である（第2図）。調査範囲の制約もあり、土手部の調査例が多く、野馬堀とセットでの調査成果がある事例は多くない。長者堀野馬土手⑥や屋敷添野馬土手④では土手の規模に対して掘り込みの浅い溝が確認された。文達野松里野馬土手③では詳細な土層観察から土手部の構築法や、「宝永火山灰」の堆積状況から構築・補修時期の推定が行われている。近年調査された柳沢野馬土手第2地点⑬や大木境野馬土手⑯では複数の溝の堆積状況等から土手などの改修が想定されている。

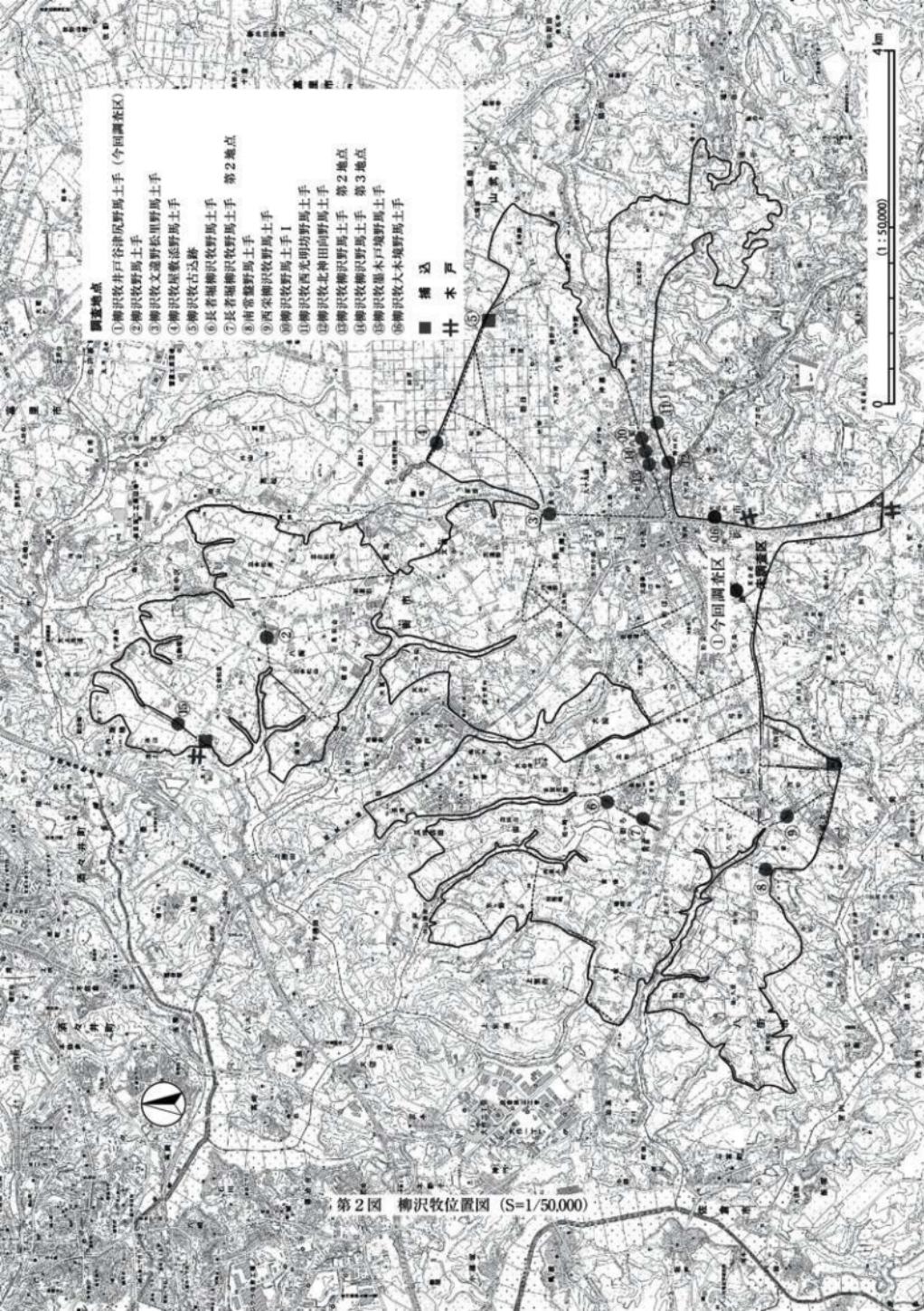
柳沢牧の捕込は絵図等から勢多村境・柳沢牧高野牧境土手・墨村境にあったとされる。勢多村境の捕込は東西に長い構造で、享保13（1728）年に作られた新込といわれる。柳沢牧高野牧境の捕込は「高野牧絵図」によると「柳沢牧古込」と記載され、北西から南東に長い三室構造として描かれる。墨村境の捕込は「七牧大絵図」によると南北に長軸をもつ平面長方形を呈している。

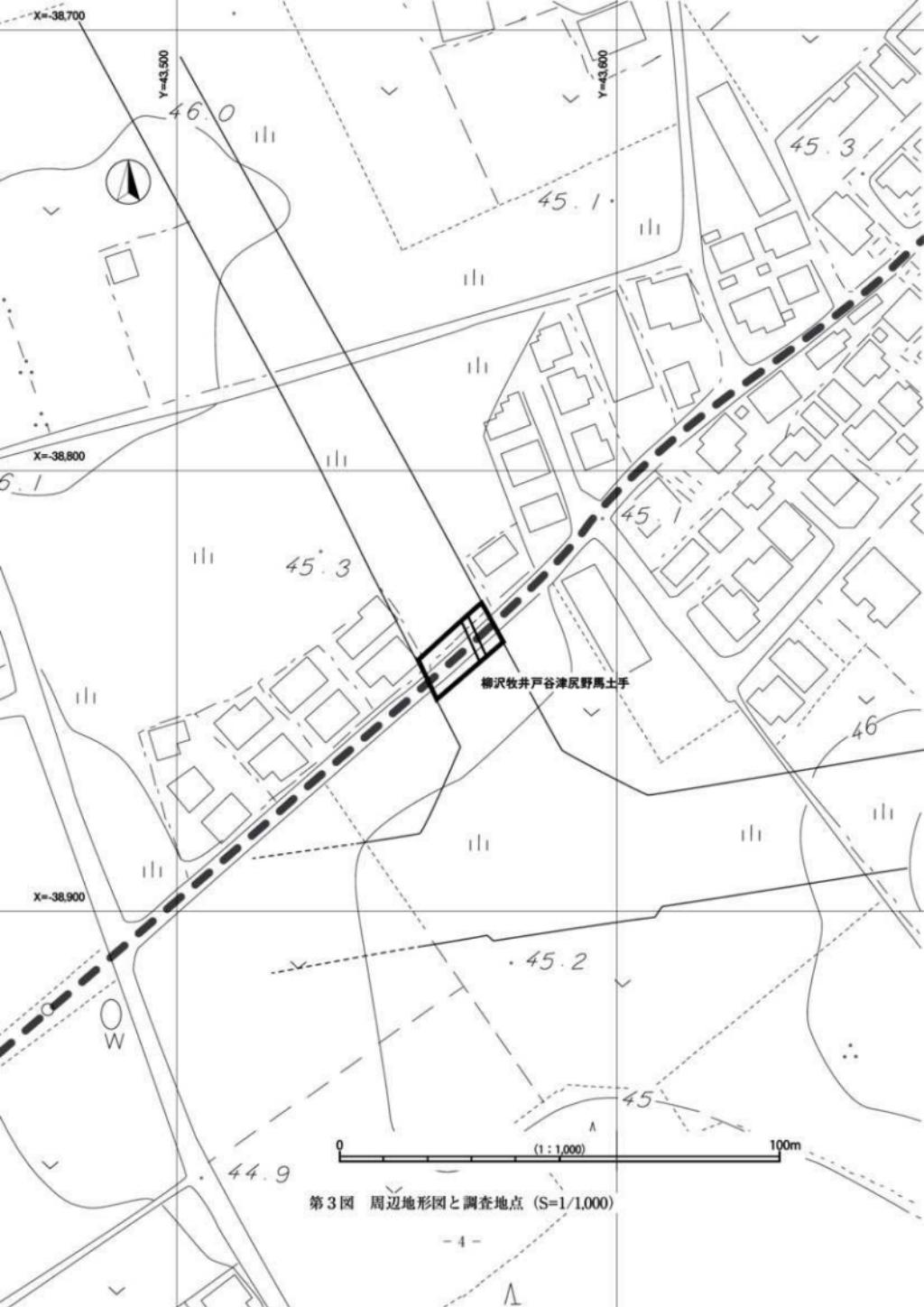


第1図 千葉県内の近世牧位置図

4 km

(1:50,000)





第3図 周辺地形図と調査地点 (S=1/1,000)

第2章 調査の成果

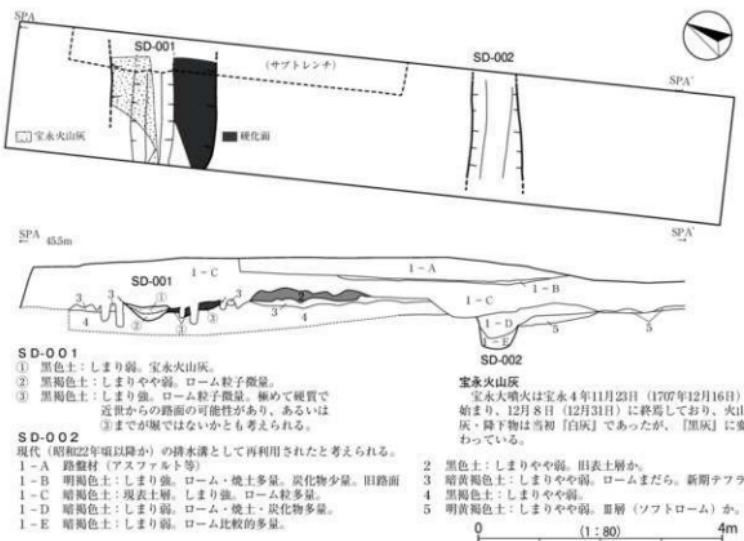
調査区内の野馬土手は既に削平されて道路となっており、土手が想定される箇所に確認トレンチを直行するように調査区の東側に1本、南北方向に幅2m、長さ12mで設定した。その結果、東西方向に延びる溝が2条検出された。トレント内からは遺物の出土はなかった。現在の道路敷設に伴い野馬土手の削平が行われていることから、旧状を復元することは至って難しい。

SD-001 (第4図、図版4~6)

溝の規模は、深さが旧表土層上面から底面まで56cm、幅64cm~75cmで緩やかに立ち上がり、溝の検出時に黒色の宝永火山灰（第①層）の薄い堆積が確認された。また、この溝の南側には厚みのある踏み締めによるとみられる硬化面（第③層）が確認でき、その幅は72cm~90cmである。宝永火山灰と硬化面の土を除去した後に、野馬堀と判断される浅い溝が確認された。あるいは硬化面も含めた幅が野馬堀であった可能性もあるほか、2条の堀が並行していた可能性もある。

SD-002 (第4図、図版4~6)

溝の規模は、深さ50cm~56cm、幅50cm~90cm、底面幅32cm~40cmである。掘込みは比較的深く、築堀壠状である。覆土中に硬化面は確認できなかった。なお、当初、地元の方の聞き取りから昭和22年頃以降の排水溝の可能性が高いと判断されたが、野馬土手に伴うかつての堀が位置していた可能性もあり、排水溝として掘り返されている可能性が高いと思われる。



第4図 遺構平面図・断面図 (S=1/80)

第3章 総 括

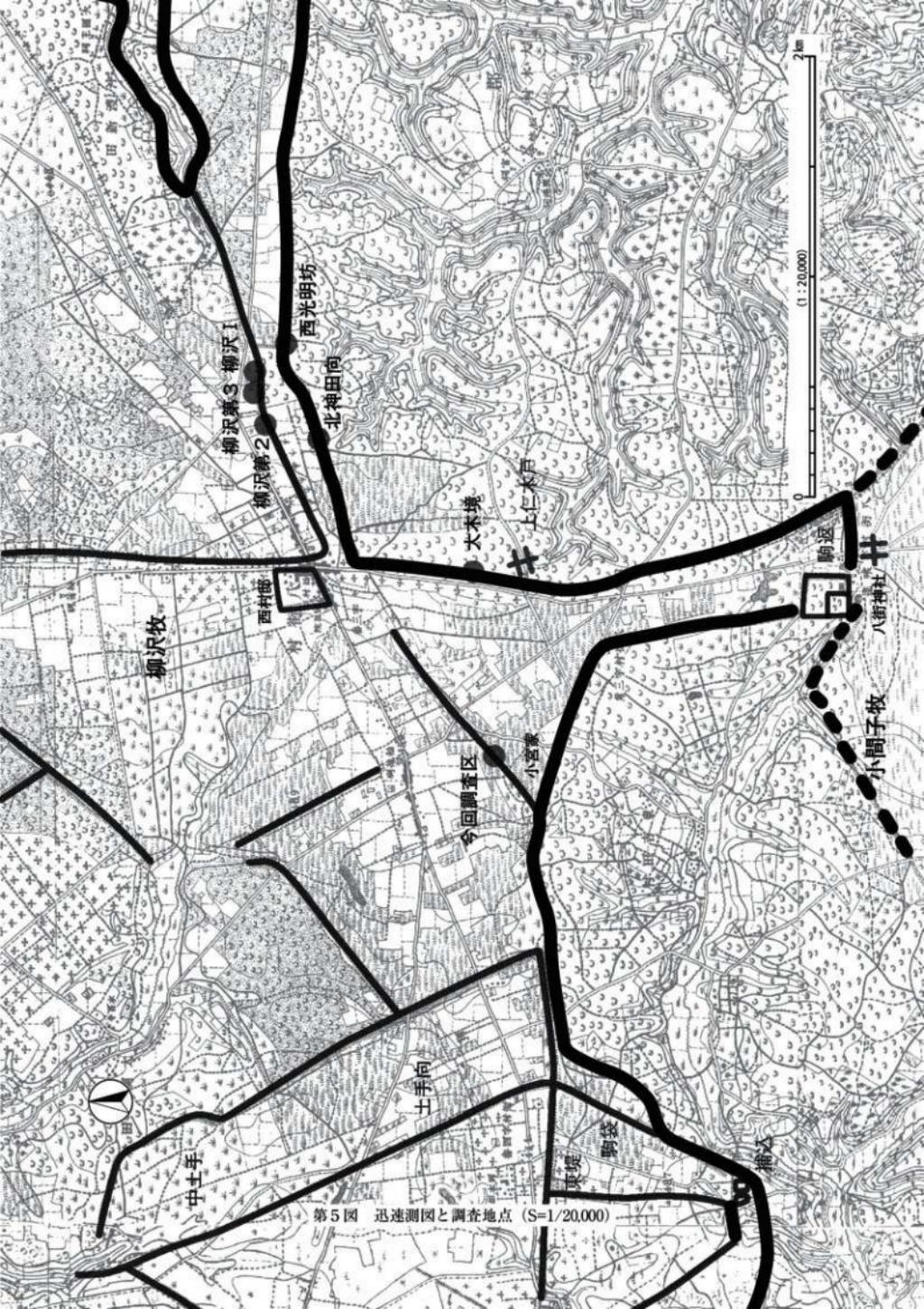
今回の調査対象となった近世牧の野馬土手は柳沢牧の南東部にあたる。調査対象の土手が想定される今回の地点は既に削平されて現状では道路となっている。道路を縦断する確認トレーニチを設定し調査を行ったところ、東西方向に並行して延びる溝を2条検出しており、野馬堀の痕跡と判断された。野馬土手の構築時期などを示す遺物は皆無であった。

SD-001は、想定される土手の位置や旧表土などから浅い堀込みと考えられる。底面に近いところでは宝永火山灰及び硬化面を検出することができ、堀が埋まり、道として使用されていった状況が推測される。SD-002は、昭和22年頃以降の排水溝の可能性が高いと考えられるが、「県内遺跡詳細分布調査報告書 房総の近世牧跡」の「第4章第2節(1)現代に生きる近世の遺構 野馬土手の可能性」で触れられているように「下水路になったかつての堀も、良かれ悪しかれ、役割や姿を変えて現代に残っているとみるべきである」と考え、今回は野馬土手に伴う野馬堀としておきたい。

明治前期の迅速測図に、野馬土手調査地点と絵図等から判明している捕込や木戸、土手の位置を表記したのが第5図である。調査区周辺は、駒返や駒袋、上仁木戸など牧に関連した施設の地名が残る地域である。南南東1.5kmほどにある八街神社の境内には捕込の土手がよく残っていたが、調査地点周辺の野馬土手の踏査を併せて行ったところ、かつての面影を残している地点は僅かであった。今回の調査のように野馬堀の確認をもってその存在を裏付けるのがやっとの状況にあり、野馬土手が失われつつある中、改めて発掘調査による確認作業が貴重な成果となっていくと思われる。

注) 柳沢牧・周辺遺跡の内容については下記文献を参照した。第2図は下記⑮文献の第36図を元に作成し、柳沢牧内の調査地点Noと下記文献Noは対応している。

- ① 本書
- ② (財) 印旛都市文化財センター 1986『大間大曲遺跡・柳沢牧・御成街道発掘調査報告書』第3集
- ③ (財) 印旛都市文化財センター 2002『柳沢牧文選松里野馬土手』第195集
- ④ (財) 印旛都市文化財センター 1992『財団法人印旛都市文化財センター年報8 - 平成3年度 -』
- ⑤ 富里市教育委員会 2013『平成23年度富里市内遺跡発掘調査報告書』
- ⑥ ⑩ 八街市教育委員会 1993『平成3年度八街市市内遺跡発掘調査概報』
- ⑦ 八街市教育委員会 1996『長者堀柳沢牧野馬土手(第2地点)発掘調査報告書』第2集
- ⑧ (財) 印旛都市文化財センター 1991『龜拝塚1号墳・宮前古墳・南常盤野馬土手発掘調査報告書』第46集
- ⑨ 八街町 1991『小間子牧野馬土手西栄柳沢牧野馬土手発掘調査報告書』
- ⑪ ⑫ (財) 印旛都市文化財センター 2001『柳沢牧西光明坊野馬土手・柳沢牧北神田向野馬土手』第179集
- ⑬ ⑭ 平成18年度八街市教育委員会調査
- ⑯ (公財) 千葉県教育振興財团 2015『酒々井町飯積上台遺跡2・飯積原山遺跡3・柳沢牧墨戸境野馬土手』第738集
- ⑯ 千葉県教育委員会 2014『八街市柳沢牧大木堀野馬土手』第2集
- ⑰ 千葉県教育委員会 1986『牧・千葉県生産遺跡詳細分布調査報告書』
- ⑱ 千葉県教育委員会 2006『柳沢牧』『県内遺跡詳細分布調査報告書 房総の近世牧跡』



第5図　迅速測図と調査地点 (S=1/20,000)

写 真 図 版



図版2 調査前・調査状況





図版4 トレンチ





トレンチ内 SD-002 (西から)



トレンチ内 SD-001 断面 (西から)



トレンチ内 SD-002 断面 (南から)

図版6 トレンチ・周辺の野馬土手



トレンチ内 SD-001・002 断面（西から）



周辺の野馬土手・小宮家（南西から）



周辺の野馬土手・人街神社（南東から）

報告書抄録

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第13集

八街市柳沢牧井戸谷津尻野馬土手

— 主要地方道成東酒々井線バイパス(八街バイパス)事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成28年3月25日発行

編集・発行 千葉県教育委員会
千葉市中央区市場町1番1号

印 刷 三陽メディア株式会社
千葉市中央区浜野町1397
